



取材協力

社会福祉法人  
すこやか福祉会  
福島県福島市沖高宇中島 14-1  
TEL 024-552-1377  
http://www.sukoyakanosato.jp



1 当日の参加者は13名。食事が始まるまでの時間も充実！地区民生委員（奥右）も隣の一人暮らしの参加者に声をかけて暮らしびりを確かめ支えています。2 男性陣の参加も多く見られました。3 食事会当日は口腔体操や血圧測定を実施。健康手帳を使って体調管理もできると好評。

4 ノロウィルスの予防を紙芝居で楽しく紹介（写真左・管理栄養士 佐藤真希子さん、写真右・総務経理課 石川則子さん）5 福島学院大学 社会福祉心理学科の学生ボランティア。取材当日は4人が参加して調理を手伝いました。

# 社会福祉法人 すこやか福祉会 社会福祉法人の公益的取組みで 地域の声がつながる社会へ

それぞれの社会福祉法人では、創意工夫をこらした様々な公益的な取組みを推進しています。福島市の『すこやか福祉会』では、地域の集会所を利用して食事会を開催しています。活動開始より2年。現在の様子をお聞きしました。

## 社会福祉法人として 地域に向けて何ができるか

「公益的な取組」といって、難しく聞こえるかもしれませんが、私たち社会福祉法人が原点に立ち返り、その存在意義を地域に伝えたいと思ったのが出発点です」と話してくれたのは、すこやか福祉会常務理事兼施設長の佐藤進也さん。

平成29年、高齢者の生活支援事業を展開してきた法人が、社会福祉を担う人材を育成している福島学院大学と共に、地域包括支援センター（以下、包括）の活用を図って、地域にどんな貢献ができるか模索しました。様々なアイデアが出る中、事業を通して培ってきたノウハウと人材を、地域に活かせる「食事会」を行うことにしました。

「具体的にどの地区で食事会を行うのか、ヘルパー事業、デイサービス、包括の管理者たちの声を聞きました。一番地域と関わっている皆さんです。すると、特に宮代地区の団地の皆さんは独居高齢者が多く、空き家も近年目立ってきている。隣近所の関係が日頃から気になっていて...という声が上がってきました。」

## 食事会をきっかけに生まれた 新しい地域共生のかたち

毎月開かれる宮代団地の食事会は、通算20回を数える地域の定番イベントになりました。取材当日、朝10時に集会所の前に車が止まると、法人職員、管理栄養士、学生ボランティアなどが手慣れた様子で食材を集会所に運び込みます。本日のメニューは、糟汁、おにぎり、漬物、果物の4品。団地の住人が訪れるなか、元気な笑い声が飛び交っています。

3つの団地が対象ですが、その中の宮代団地親和会会長の渡辺和則さんに話を聞きました。「宮代団地は79戸で、そのうち49世帯が入居しています。残りは空き家です。食事会が始まって2年目になります。月に一度、元気があったかい？と顔を合わせることができ、地域に浸透しています。ボランティアの学生さんと話せるのも魅力です」と話します。

食事会参加者の中から、防犯や防災の知識を高めたという意見がでて、こつした声を受けて食事会の中で、地元警察署や消防署の職員を呼んでの講座を実施。「なりすまし詐欺の被害に遭わな



「食事会の他には、子どもたちへの学習支援や子ども食堂といったアイデアもありました」と常務理事兼施設長の佐藤さん

いざ地域に足を運んだ法人ですが、当初はスムーズにはいかなかったといいます。「理事長と常務理事、私の3人で団地を訪ね、3町会長と生委員さんに趣旨と目的をお伝えしたのですが、これは営業なの？」といった声もあつて。あらためて社会福祉法人の地域における役割を説明し、地域のためにぜひ私たちを使ってくださいと協力を仰ぎました。

平成29年10月14日、記念すべき第1回の食事会。住民の参加者は11名。法人職員も、包括職員も、民生委員も、住民たちも学生も初顔合わせでちよっぴり緊張気味でしたが、管理栄養士の巧みな話術と美味しい食事、学生の笑顔で楽しい食事会となりました。



「毎月の食事会は住民同士のさりげない見守り活動につながっています」と宮代団地親和会会長の渡辺和則さん

「具体的な」火災報知器の点検・火の始末について「などの講話はいずれも好評で、現在は地域のハザードマップを作ってはどうかというアイデアも上がっています。」

こうした新しい動きについて常務理事兼施設長の佐藤さんは、「食事会をきっかけに顔の見える関係性が広がり、住みやすさにつながればと願っています。私たちはその入り口を整備する役目を陰ながら担えたらいいですね」と今後を見据えています。

「インターネットやスマホなどがいくら発達しても、地域の中に共に居なければ、住民の声は聞こえないし本音は見えません。みんなでできることを少しずつ持ち寄って、輪を作っていくことが、地域で共生するということだと思います」と佐藤さん。

食事会が終わっても、互いの近況や思い出話に花が咲く参加者たち。住民主体の地域づくりとはお仕着せではなく、文字通り住民が主人公となるコミュニケーションのこと。社会福祉法人は、地域コミュニティをやさしく照らす「照明役」を担っているのかもしれない。

食事会ではどのテーブルにも学生ボランティアが必ず1人は入るように工夫。会話も弾みます。

